

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し、自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現する。

- (1) 自己を高める力（確かな学力・ねばり強さと未来に希望を持つ志）の育成
- (2) 人とつながる力（人とつながる喜びを知り、自分を大切にするとともに他の人も大切に、周囲と協力し合う力）の育成
- (3) 社会に貢献する力（地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力）の育成

2 中期的目標

1 学習活動の充実

- (1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教職員が授業力向上に取り組む。
- (2) エンパワメントスクール（総合学科）として選択科目及びエンパワメントタイムの学習内容の充実と新学習指導要領における教育活動の充実を図る。
* 生徒学校教育自己診断における「授業わかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）を令和7年度に75%以上とする。
(R2;74.7%、R3;69.7%、R4;73.9%)

2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。
* 中途退学率を令和6年度には5%以下とする。(R2;4.1%、R3;5.1%、R4;4.3%)
- (2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- (3) 各中学校との連携を密にし、中学時の状況を把握し、個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー（SC）スクールソーシャルワーカー（SSW）キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を密にし、教育相談体制を充実させ、安心して学ぶことができる環境整備を確保するとともに、配慮や支援を必要とする生徒情報を関係者が共有し計画的に生徒支援や進路支援をしていく。
* 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和7年度にも75%以上を継続する。(R2;74.0%、R3;69.4%、R4;77.6%)
- (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- (6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- (7) 外国にルーツがある生徒が多い学校として「多様性」を大切に、学習保障と進路保障支援を行うとともに、一人ひとりの力を最大限に伸ばす教育を進める。
* 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和7年度にも80%以上を継続する。(R2;87.9%、R3;76.9%、R4;83.6%)

3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 卒業後をみすえた進学・就職支援（勤労観・職業観・社会人基礎力を養い、将来の自分の生き方に展望を持つための働きかけ）を積極的に行う。
- (2) 学ぶ、働く、自分らしく生きることの大切さを理解し自己肯定感を育めるよう、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。
* 進路決定率を令和7年度には85%以上とする。(R2;85.2%、R3;84.5%、R4;79.9%)
* 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和7年度にも85%以上を継続する。(R2;87.5%、R3;82.5%、R4;85.6%)

4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

- (1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。
* 生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価（学校生活満足度）を令和7年度には75%以上とする。
(R2;74.6%、R3;64.9%、R4;71.8%)
* 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価（エンパワメントスクール満足度）を令和7年度も80%以上を維持する。(R2;86.4%、R3;78.5%、R4;83.6%)
- (2) 学び直しやデュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

5 教職員の働き方改革を進める

- (1) ノークラブデー・全庁一斉休日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。
- (2) 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。
* 時間外勤務の年間平均時間を令和7年度には320時間以下とする。(R2;325時間47分、R3;361時間52分、R4;321時間35分)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】 回答数443名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4点満点に換算したポイントの総平均は上昇(3.04P⇒3.08P)、質問27項目中20項目のポイントが上昇、下降した項目の差は、0.01%から0.12%であった。肯定的評価は21項目で上昇した。(78.0⇒80.0%) ・評価の高い項目は、「4授業で自分の考えをまとめたり発表する機会」(3.34P)「5教え方に工夫」(3.23P)「7生徒の興味・関心・適性・進路に応じて選択科目が選べる。」(3.31P)「12命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」(3.27P)「17人権について学ぶ機会」(3.21P)「22先生は互いに協力」(3.26P)「21授業などでコンピュータやプロジェクトを活用」(3.46P)「22デュアル実習等他の学校にない特色」(3.44P)「2530分授業は学びなおしに役立つ」(3.39P)「26エンパワメントスクールに入学して良かった」(3.27P)「27学校は1人1台端末を効果的に活用」(3.33P)であった。 ・肯定的評価が90%以上の項目は、「4授業で発表する機会」(90.5%)「12命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」(90.4%)「21授業などでコンピュータやプロジェクトを活用」(94.2%)「22デュアル実習等他の学校にない特色」(94.7%)「2530分授業は苦手な分野の学び直しに役立つ」(91.5%)であり、肯定的評価が著しく上昇した項目は、「10いじめに真剣に対応してくれる」(79.5⇒84.6%)「12命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」(85.0⇒90.4%)「19先生は互いに協力」(83.9⇒89.0%)であった。肯 	<p>第1回 7月8日(土)</p> <p>【テーマ】『布施北高校～魅力ある学校づくり～』(「スクール・ポリシー」の策定に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スクール・ポリシー」(案)について、先生方で議論がなされ、よくできていると感じる。 ・在学中の生徒が「スクール・ポリシー」(案)の通りに過ごしている実感がある。布施北は努力すれば結果が出る学校。自己肯定感が上がり、生徒は部活動、生徒会活動、アルバイト等、充実した学校生活を送れている。 ・中学生向け体験授業で生徒会長が、原稿なしで中学生に挨拶を述べていた。一生懸命さを感じ、生徒(中3生)も集中して話を聞いていた。布施北高校の教職員は対応が良い。集中が続かない生徒でも上手に受け入れてくれるという安心感がある。安心して送り出せる。 ・最近、スマホを見ながら1人で食事する高校生がいると聞いた。布施北高校の教職員は、そのような生徒にも声をかけてしっかりとコミュニケーションをとっている印象。 ・20年程前は、部活動を行うこともままならず荒れていた。当時の学校目標は「自己肯定感

府立布施北高等学校

<p>定的評価が著しく下った項目はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の特色である、基礎基本の学力の育成と進路実現に向けた学習、人権教育、一人ひとりへの支援や援助、ICT 活用や課題解決等の授業の工夫、デュアルシステムを中心としたキャリア教育が実感される結果となった。 <p>【保護者】 回答数 139 名</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 点満点換算ポイントの、総平均はやや減少した。(3.04⇒3.03P) 評価の高い項目は「18 デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験」(3.54P) 「20 子どもがエンパワメントスクールに入学してよかった」(3.57P) であった。 肯定的評価が高い項目は、「4 子どもが学校行事に積極的に参加」(83.5%) 「15 学校は将来の進路や職業等について適切な指導を行っている」(83.5%) 「18 デュアルシステムの実習などは子どもにとって良い経験」(92.8%) 「20 子どもがエンパワメントスクールに入学してよかった」(87.1%)、肯定的評価が上著しく上昇した項目は「16 学校はデュアルシステムを含め、学校の特色や教育情報抵抗の努力をしている」(82.8⇒87.7%) であった。 肯定的評価が著しく下った項目は「7 保護者の相談に適切にのってくれる」(75.4⇒69.1%) 「8 生徒指導の方針に共感」(67.7⇒61.6%) 「11HP をよく見る」(76.8⇒52.5%) であった。 コロナ禍を経て、PTA 活動等が活性化しつつある中、保護者の方々に学校の取組みを伝え、更に関心を持っていただきたい。設問 7、8 の評価については今後の課題である。 <p>【教職員】 回答数 56 名</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 点満点換算 P 総平均は上昇 (2.71⇒2.83P)、肯定的評価は全 34 項目中 31 項目で上昇した。(57.0⇒68.7%、11.7%上昇した) 評価の高い項目は「10 いじめが起こった際の体制が整っている」(3.31P) 「16 渡日生を支援する体制」(3.29P) 「29 デュアル等地域連携を教育活動にいかしている」(3.50P) 「30 教育活動に必要な情報について生徒・保護者・地域に周知」(3.28P) であった。 肯定的評価が高い項目は、「6 生徒の実態を踏まえ、参加体験型の学習等指導方法の工夫・改善を実施」(91.4%) 「17 体罰やセクハラ防止をはじめ人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導」(93.1%)、肯定的評価が著しく上昇 (10.8～34.0%) した項目は、「1 教育活動について教職員で日常的に相談」(68.5⇒79.3%) 「3 保護者や生徒の願いを把握し応えている」(48.1⇒62.1%) 「4 授業方法等について検討する機会」(44.4⇒62.1%) 「8 問題行動に対する組織的対応」(64.8⇒82.5%) 「9 教育相談体制の整備・担任以外の相談相手」(63.0⇒82.8%) 「10 いじめが起こった際に迅速に対応する体制」(79.2⇒94.8%) 「11 校則について生徒や保護者が話し合う機会」(31.5⇒53.4%) 「13 進路選択のためのきめ細かい情報提供」(74.1⇒89.7%) 「14 学校行事の工夫・改善」(42.6⇒69.0%) 「15 生徒会活動等生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援」(20.4⇒51.7%) 「18 校長の教育理念や学校運営についての考え」(40.7⇒53.4%) 「21 教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担・教職員が意欲的に取り組める環境」(29.6⇒46.4%) 「26 校内研修組織の確立と実施」(44.4⇒75.9%) 「27 校内研修の内容が役立つ」(31.5⇒65.5%) 「28 校外研修に計画的に参加する体制」(25.9⇒47.4%) 「34 1 人 1 台端末の効果的活用」(57.4⇒74.1%) であった。肯定的評価が著しく下った項目はない。 教職員が、3 本柱 (学び直し、人権教育、キャリア教育) を十分に理解して教育活動に取り組んでいる成果や、生徒一人ひとりに寄り添いながら生徒の自己実現を支援しようとする姿勢の向上が表れている。また、教職員間の連携やチーム学校としての体制が様々な面で整備された。 	<p>を育てよう」だったが、布施北高校はそれを体現できてきたのではないかと。困ったら頼ってもいいという東大阪の地域の目標とも合致している。地域も一緒に教育に取り組むという姿勢を今後も双方が持つことが肝要である。</p> <p>【令和 6 年度使用教科用図書の採択について】 承認していただいた。</p> <p>第 2 回 11 月 17 日 (金)</p> <p>【授業見学】 (1 年「キャリア基礎」2 年渡日生「歴史総合」3 年渡日生「現代社会」) と意見交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が楽しいと思える授業であると感じた。教師と生徒だけでなく生徒同士でも意見を出し合い、交流できるアットホームな良い雰囲気があった。 生徒の発表を聞いて、いい発想をしていると感じた。大人では思いつかないような、生徒の柔軟な発想に感心した。また、1 人 1 台端末を活用した授業を見ることができ、自身が学生の頃との変化に驚いた。 帰国・渡日生徒が明るく授業を受けている姿が非常に印象的であった。特に 3 年生は流暢に日本語を話していた。教材や板書の漢字にルビを打ち、生徒にあった授業の組み立てや工夫が感じられた。 同じ授業内容の、複数のクラスを見学したが、担当者によって様々な工夫がみられた。 <p>【「スクール・ポリシー」の確認】</p> <p>第 3 回 2 月 3 日 (土) 実施</p> <p>【令和 5 年度の振り返りと令和 6 年度に向けて】～令和 5 年度学校経営計画の評価・令和 6 年度学校経営計画、学校教育自己診断結果について～</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高連絡会の実施は良い取組み。今後も中学校との連携を強化していくべき。 人権問題、差別事象について、学校の指導は重要だが、保護者の影響も大きい。親の発言を聞き、子どもも言う。保護者に対しても啓発活動が必要か。学校での人権学習を HP 等で発信してはどうか。大人からは見えないいじめ、見えない差別をキャッチできるようこれからも生徒と関わってほしい。 コロナが 5 類に移行後、学校行事等が完全に元の状態に戻っていない。今後も工夫が必要。 さくら連絡網の導入は評価。登録作業、操作方法がマニュアルだけでは難しい部分もある。 教職員について、どこの学校でも同じだろうが、ミドルリーダーの育成や経験年数の少ない教員の育成が重要。 来年度の学校経営計画について、学校の積極性・意欲が感じられる。 卒業時アンケートの自由記述欄に、友人と教員に対する感謝が多く書かれていた。これまではなかったのでは。すばらしい。自己評価が低い子どもが多いと言われる中、このアンケートでは自己評価が高い。先生のおかげ。 学力の向上だけが教育ではない。布施北高校の地域連携というアイデンティティを今後も大切にしながら、今後も布施北高校を盛り上げてほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[令和 4 年度値]	自己評価
1 学習活動の充実	(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備と、生徒が「わかった」「楽しい」と思う授業展開	(1) ア 授業規律を一致して指導し、授業を通じた生徒指導を行うことで、落ち着いた授業環境を作る。 イ モジュール授業や習熟度別授業を中心に、授業の楽しさを体験させ、基礎基本の学力の定着を図り、生徒の自己肯定感を高める。 ウ ユニバーサルデザインの観点から、生徒が集中して学べる学習の取組みを進める。	(1) ア 授業中における懲戒生徒数 10 人以下継続 [6 人] イウ 生徒学校教育自己診断「30 分授業」肯定的評価 85%以上継続 [89.7%] 生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価 (授業満足度) 70%以上継続 [73.9%]	(1) ア 生徒一人ひとりへの最適な指導・援助を行うための安心・安全な授業環境づくりができています。 授業中の懲戒生徒数 5 人 (○) イ 30 分授業や習熟度別授業、チームティーチング、少人数指導等、面倒見の良い指導を行い、基礎基本の学力の定着を図っている。多くの生徒が、自己肯定感や自己効力感を高め、学校生活全般に対して意欲的に取り組んでいる。 ウ 多様な生徒の実態やニーズに応じて、ユニバーサルデザインの観点から授業や教材を工夫して実施できている。 生徒学校教育自己診断「30 分授業」肯定的評価 91.5% (◎) 生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価 (授業満足度) 75.6% (◎)

府立布施北高等学校

<p>(2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実</p>	<p>(2) ア 1人1台端末の積極的利活用等、エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型(主体的・対話的で深い学び)授業を充実させる。</p> <p>イ 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習を中心としたエンパワメントタイムを通して、自己実現を図ろうとする意欲や態度を育む。</p> <p>ウ 外部や地域の教育力を活かした授業展開を積極的に実施する。</p>	<p>(2) アイ ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価80%以上維持[86.9%] ・教職員学校自己診断「参加体験型の学習等指導の工夫改善を行っている」肯定的評価アップ[84.8%] ・インターンシップ出席率の維持[99.4%] ・デュアル実習出席率の維持[94.0%]</p> <p>ウ ・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価アップ[49.1%]</p>	<p>(2) ア 教職員間で好事例を共有する等、ICTを活用した授業実践が進み、生徒の「主体的・対話的で深い学び」が深まっている。また、アジアの高校生(韓国・台湾)との交流授業を実施し、相互理解と生徒の意欲向上が促された。</p> <p>・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価88.7%(◎) ・教職員学校自己診断「参加体験型の学習等指導の工夫改善を行っている」肯定的評価91.4%で6.6%向上した。(◎)</p> <p>イ エンパワメントタイムを中心とした授業を通じて、生徒のコミュニケーション能力や表現力、文章力を向上させることができた。</p> <p>・インターンシップ出席率95.0%、コロナ出席停止(体調不良)が無くなった中、高い参加率を維持できた。(○) ・デュアル実習出席率94.5%(◎)</p> <p>ウ 地域の外部講師(特別非常勤)を活用できた。</p> <p>・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価50.9%、PTA役員や同窓会との連携が深まった。(◎)</p>
<p>(3) 教職員の授業力の向上</p>	<p>(3) ア テーマを決めて、計画的に授業公開週間を設定し、授業の工夫や授業方法・指導方法について、法定研修の研究授業等を活用しながら、教科会等教職員が互いに学び合う場を増やす。</p> <p>イ 1人1台端末の利活用を推進する等、「主体的・対話的で深い学び」の深化を図る。</p> <p>ウ 観点別学習状況評価導入2年めにあたり、昨年実施学年の気づきや改善点を共有する機会を増やす。</p>	<p>(3) ア ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均のアップ[53.6%]</p> <p>イ ・生徒学校教育自己診断「コンピュータやプロジェクター利用・端末の利用」肯定的評価90%以上継続[91.2%]</p> <p>ウ ・授業公開週間等を活用し、教科会議で検討・共有する機会を持つ。</p>	<p>(3) ア・ウ 授業公開週間や法廷研修の研究授業(6回)、エンパワメントスクール公開授業を活用し、学年会議・教科会議等で授業力向上と観点別評価をテーマに交流し、組織的に授業力向上の取組みを行い、成果をあげた。(◎)</p> <p>・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均61.5%、特に「指導方法等」は17.7%向上(62.1%)、「指導方法の工夫・改善」は6.2%向上(91.4%)(◎)</p> <p>イ 1人1台端末の利活用を推進し、生徒の主体的・対話的で深い学びが深まっている。</p> <p>・生徒学校教育自己診断「コンピュータやプロジェクター利用・端末の利用」肯定的評価94.2%(◎)</p>
<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかりと把握し高校生活に定着させるための生徒指導と外部連携の充実</p>	<p>(1) ア 丁寧な遅刻指導、頭髪指導や服装指導等による規範意識や基本的生活習慣、生徒の自主性を醸成する。</p> <p>イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問等、保護者との連携により信頼関係を築き、生徒理解につなげる。</p> <p>ウ 中高連絡会の開催や入学当初の随時迅速な中高連携を実施し、一人ひとりを大切に生徒指導やキャリア教育に活用する。</p>	<p>(1) アイウ ・懲戒生徒人数の減少[57人] ・中途退学者率5%以下[4.3%] ・欠席延人数の減少[6968人] ・遅刻延人数の減少[5064人]</p>	<p>(1) ア 学校が一体となって生徒指導に取り組み、生徒の基本的生活習慣等を育んだ。</p> <p>イ 保護者との信頼関係を築き、生徒のより良い成長に向けての共通理解の醸成に努めた。</p> <p>・多様化する生徒指導上の課題に対して丁寧に指導・援助を行った。次年度は、課題予防型の生徒指導に取り組みたい。</p> <p>・懲戒生徒人数95人(△) ・中途退学者率5.7%(△) ・欠席延人数7232人、コロナ出停が無くなったこともあり、上昇している。(△) ・遅刻延人数4387人(◎)</p> <p>ウ 中高連絡会(9月)や、中学校訪問等の中高連携を通じ、生徒個々の状況に即した適切な支援を行った。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり</p>	<p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり</p> <p>(3) 人権教育の推進</p>	<p>(2) ア 要配慮生徒や課題を抱える生徒の状況把握と情報共有に努め、教育活動全般に活かす。専門人材(SC及びSSW等)との連携を強化し要配慮生徒のケース会議を実施する。また、生徒の状況やニーズに応じた学習支援等、支援体制や学習環境を充実させる。</p> <p>イ 子ども家庭センター等、外部機関との連携を拡充し、教育相談を充実させる。</p> <p>ウ 学校生活等で悩みを相談できる居場所の設置や専門人材(SC・SSW)等による生徒や保護者への支援を拡充し、学校生活をサポートする教育相談体制を充実させる。</p> <p>エ 学校行事、生徒会行事、部活動等、生徒活躍の場(自主的活動の場)を活発にし、生徒の高校生活の充実につなげる。</p> <p>(3) ア 生徒対象の人権学習を系統的に実施する。また、薬物乱用防止、性に関する指導、がん教育等の講演会を計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育やカウンセリングマインドによる生徒指導、教育相談、支援教育をテーマとした教職員研修を実施する。</p> <p>ウ 外国にルーツがある生徒のアイデンティティを大切にしつつ、他の生徒との交流を進め(多文化研究部の発表等)、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。</p>	<p>(2) アイウ ・生徒学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定的評価70%以上[69.7] ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価80%以上継続[89.1%※R3:63.0%] ・専門人材や外部機関とも連携したケース会議の迅速実施 ・教育相談室の定期的な開室(週3回程度)</p> <p>エ ・生徒学校教育自己診断「学校・自クラスが楽しい」の肯定的評価75%以上継続[79.3%] ・生徒学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるよう工夫」肯定的評価アップ[78.0] ・体育祭、文化祭の生徒の出席率90%以上継続[体育祭96.6%・文化祭90.0%]</p> <p>(3) ア ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価75%以上継続[83.6※R3:76.9]</p> <p>イ ・教職員研修年間3回以上[5回]</p> <p>ウ ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価60%以上継続[65.2%※R3:50.9%]</p>	<p>(2) アイ 教育相談体制が整い、要配慮生徒や日本語指導が必要な生徒等の情報共有を教育活動全般にいかす体制が整備された。教育相談委員会と学年の連携が円滑に進み、迅速なケース会議の実施や外部機関との連携が行えた。授業時間外のSC・SSW活用率が100%になったので、次年度は更なる活用法を検討する。</p> <p>ウ 生徒の居場所づくり(教育相談室・図書室・保健室)が進み、不登校の未然防止に一定の成果を得ている。次年度も継続する。 ・生徒学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定的評価70.3%(○) ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価82.8%(○) ・専門人材や外部機関と連携したケース会議の迅速実施(24回)、学年会議・職員会議での共有(◎) ・教育相談室の定期的な開室(月～金昼休み開室、SC・SSW出勤日の放課後開室)(◎)</p> <p>エ 各種学校行事において、生徒たちが自主的に作り上げる様子や躍動する姿が見られた。ただ、コロナ禍の影響もあり、部活動の加入率が減少していることが、次年度の課題である。 ・生徒学校教育自己診断「学校・自クラスが楽しい」肯定的評価74.2%、コミュニケーションが苦手な生徒の支援を継続して実施する。(△) ・生徒学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるよう工夫」肯定的評価81.1%(◎) ・体育祭出席率78.5%、文化祭出席率90.3%、両行事ともに、コロナ出席停止(体調不良)が無くなる中、参加率を一定維持できた。(○)</p> <p>ア 1年次から3年次迄系統的に計画を立て、人権学習を実施できた。また、健康教育(薬物・性・がんに関する講演会)を実施できた。がん教育については初めて実施したが「癌について知り、命の大切さについて考えることができた」との感想が多く寄せられた。今年度は、同窓会と連携して、初めて、生徒・同窓会・教職員対象の人権講演会(講師:染谷西郷)を実施した。 ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価87.7%、4.1%上昇(◎)</p> <p>イ 部落問題・教育相談・支援教育・生徒指導をテーマとした教職員研修を実施し、資質の向上を図った。 ・教職員研修年間7回実施(◎)</p> <p>ウ 文化祭の舞台発表、授業発表、地域の小学校への出前授業、司馬遼太郎記念館や中央図書館資料の翻訳、大阪マラソンボランティア、府立外教主催のWaiWaiトーク等で生徒が活躍し、他の生徒等と交流できた。進路支援や資格取得支援を継続し、英検1級合格者も出た。 ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価64.0%(○)</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 卒業後を見据えた体系的なキャリア教育の取組み</p>	<p>(1) ア 職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人が夢や志を持って自己の可能性を広げたり、進路設計への主体的意識を高めたりできるよう支援する。</p> <p>イ 進路講演等体系的なキャリア教育を通じて、進路決定及び定着に向けた取組みを継続する。</p>	<p>(1) アイ ・進路未定率20%以下継続[20.1%] ・学校斡旋就職内定率80%以上継続[89.0%] ・生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価80%以上継続[85.6%]</p>

